

2023年6月18日

「イエス・キリストの名」

使徒言行録 4:5-12

早川 真牧師

今、私たちは初代教会において、使徒たちに聖霊が降り不思議な業が次々に行われていた、そのことを聖書から共に見えています。

ペトロとヨハネは議会に立たされても希望を失うことはなく、かえって聖霊に満たされて言ったとあります。ペトロとヨハネは漁師であり、無学な普通の人々でした。しかし人が聖霊に満たされる時、神の言葉を大胆に語るようになることがここから分かります。

ペトロはイエス・キリストの名が足の不自由な人を癒したと語っています。イエスという名は「ヤハウエは救いである」という意味です。ヤハウエという名前は、この宇宙と天地を造られた替えのきかないただおひとりの神の名ですが、その意味は一説によると「彼はあるものである」という意味です。科学が発達し、神などいないのではないかという現代の疑いの中にあって、聖書ははっきりと「わたしはある」というお方が神であることを私たちに告げています。

キリストという言葉は油注がれた者という意味で、救い主を表す言葉です。「私たちの救いであるただおひとりの神が与えてくださった救い主」それがイエス・キリストという名にある意味です。教会はこの名に依り頼んで、どのような挫折や虚無や諦めの中に置かれても、希望を抱き続けることができます。

ペトロは聖霊に満ちて、迫害の中にあっても神の言葉を大胆に語るものとされました。教会は、この救いをもたらすイエス・キリストの名を力強く証しする聖霊を、聖霊降臨節のこの時、特に祈り求めたいと思います。